

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 松涛会	代表者	斎藤 妙子	法人・事業所の特徴	家庭的な環境を作り、安心、安全な日常生活を送れるよう支援している。行事、外出支援も充実している（本年度は、外出はほとんど出来ませんでした）。敷地内には、内科があり、往診や緊急時の受診で適切な医療が受けられ、安心した生活を送る事が出
事業所名	小規模多機能 ケアタウン江の浦	管理者	西村 裕太		

出席者	新型コロナウイルス感染症の影響で運営推進会議を開催できず。職場内での会議を中心に、総括表を作成す
-----	--

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	情報収集用のフォーマットの活用を進める。利用者、担当職員による差を無くしていく。伝達も、書面、口頭伝達を併用し、抜けが無いようにしていく。	情報収集用のフォーマットは活用していたが、情報がリアルタイムに更新できていないところもあった。伝達についてはノートでの記入、申し送り等を通し、情報共有を行えた。		情報収集は今まで通り行うが、その日に対応した職員が中心となり、フォーマットの作成を行う。その後、担当者を中心に状態の変化などを話し合う。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節やイベントごとに、しっかりと変化をつけた演出を行う。この点に関しては、レベルが年々上がっているため、この流れを切らさない様にする。	利用者の方に楽しんで頂くイベントや行事は外部との交流を制限していたこともあり、あまりできていない。事業所内でできる計画を考え、夏祭りや敬老会などを行った。		今年度は感染対策も緩和されると予測されるため、事前にイベントなどについて計画を立て、それを実行していく。また、感染対策は同様に行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	状況次第ではあるが、施設のイベント（夏祭りなど）に地域の人の参加を促す。町内の回覧板に掲載し、認知度を高めていく。	地域との関わりについてはコロナウイルス感染症の影響もあり、ほとんど関わりを持つことができなかった。		各イベントや行事なども開催されていくことが予測される為、十分に感染対策を実施した上で、地域活動に参加していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の方の歩行能力が、全体的に落ちてきている。こちらが出向くより、ボランティアの方に来てもらうようにしていく。	ボランティアの方に関してもコロナウイルス感染症の影響があり、来所して頂くことができなかった。他の方に関しても来所を制限させて頂くことも多くあった。		事業所に外部の方を招くというのは制限がかかる可能性もあるが、事業所から積極的に地域や町内に関わっていくことはできると思うので、計画を立て、進
E. 運営推進会議を活かした取組み	開催状況が、現時点では全く予想がつかない。可能な限り開催し、地域との交流、情報交換を行っていく。	今年度の運営推進会議については10月に1回のみ開催できた。それ以外は開催することができず、情報交換にも限界があった。		運営推進会議についても緩和されることが予測される為、今まで行えなかった部分も含め、事業所がどのような活動を行っていたか分かって頂く機会を得
F. 事業所の防災・災害対策	この項目も状況次第。避難訓練に地域の方も参加してもらう。BCPの策定も進めている。完成すれば、地域の方とも情報共有していく。	BCPについては小規模も含め、彦島拠点で作成できている。また、適宜会議を開催し、その都度内容の確認を行い、必要であれば内容を変更している。避難訓練の地域参加はでき		今年度こそ、地域の方も交えたリアルな防災、災害対策、また、訓練を実施していく。BCPについても会議を開催し、日々、防災に努める。